

新庁舎位置

住民や職員の命を救う決断を

9月までに最終決定する／町長



コンクリートの建物まで倒壊させるほどの大破壊というほど激烈なものであった。

例えば南三陸町は、震災前の平成20年9月の想定で、我々の町とほぼ同じ約7mの津波を想定していた。宮城県では99%の確率で大地震が来るという想定のもとに準備を進めてきた町である。現地を視察した時も、職員や議員

問 東日本大震災を受け、住民の間に我々の町は本当に大丈夫かと大きな不安が取り巻いている。そんな中、3月議会で新庁舎への実施設計予算が可決された。この庁舎位置については、庁舎移転建設検討委員会が約1年半にわたり検討をしてきた。この中で議論は大変尊いもので、その結論は尊重せねばならない。しかしながら、今回の震災は、津波で建物が浸水するという生易しいものではなく、鉄筋

がある程度の覚悟や自信を持っていて、思い出す。しかし、実際には15m以上の津波が押し寄せ、防災や復興の拠点となるべき防災対策庁舎を濁流が飲み込んだ。屋上まで逃れた30人ほどの職員のうち20人は流され犠牲となった。残った10人はその屋上から上に伸びた5mの鉄塔にぶら下りながら、何度も襲来する津波に耐え続けたそうである。この現実を見たとき、最初か

ら津波に飲まれる事がわかった場所に庁舎を建てて本当にいいのだろうかという思いが強くなった。

なるほど、平時なら利便性を優先したい考えはわかるが、やはり、我々行政に携わる者は、想像力を働かせ、未来の町のイメージを100年先まで働かせ、そうした中で計画を練るぐらいの心構えが必要であると考える。庁舎移転建設検討委員会の結論をもう一度白紙に戻してでも、町長の決断が求められる時である。また、今議会で、我々議員も町民から犠牲者を一人も出さないために、特別委員会を作り、徹底的に調査、研究を行っていくと腹をくくっている。町長の英断を望みたい。

答

大西町長

新庁舎の実施設計は、議会の議決を得ているので、執行できる状況にあるが、議会への理解を得ないまま執行する

のは適切でないと考えている。9月議会にあらためて、庁舎位置の表明を行う。現在国では防災基準や被害想定の見直しに入ったところで公表までには時間がかかると考えている。そうした中、重要なのは情報収集とデータの整理であると考え、職員を現地に聞き取り調査するために派遣する事を考えている。また、今回の震災等の結果を踏まえて、庁舎位置はこれまで以上に防災機能について配慮がなされるべきと考えている。復興時にも庁舎機能が残った町は、

復旧への初動が担保できたと強く感じている。庁舎機能の有無で復旧スピードや被災者支援に差があることは様々な場面で伝えられている。どちらにしても、現在の自分の見識と経験では、どういう想定をするかということについては無理であるので、的確な判断が出来るように情報収集に努めたいと考えている。また、現在表明している庁舎、東側の建設位置については、この位置に固執して判断するものではなく、フラットの状態で判断していきたい。



新庁舎予定地だが